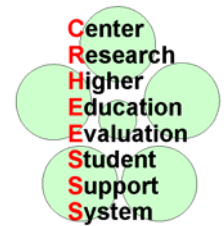


週刊センターニュース No.302

第302号(2010年3月29日) 毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：<http://www.rche-kanazawa-u.jp/>



〇●〇 離任にあたって 〇●〇

末本でございます。金沢大学の皆様、2年間お世話になりました。この3月を持ちまして、金沢大学を退職いたします。

2008年5月に大学教育開発・支援センターの特任助教として採用され、FD・ICT教育推進室にてアカンサスポータルサイトの運用や普及に関する業務に携わってきました。着任したての頃は、金沢大学の新生が全員ノートパソコンをもっていること、主要な教室や建物のロビーには無線LANが完備していることにはかなりの驚きを感じました。しかも、授業をビデオ収録してe-Learningで復習させようとするところを見て、「そこまでやるんだ」とすら思っていました。ご存じの方も多数いらっしゃると思いますが、ビデオ教材をはじめとするe-Learning教材作成は私のメイン業務のひとつになっています。なかなか不思議な話です。「便利であれば使う」という考えもありますし、そのいった形での教材を望む学生さん・教職員の方々も少なからずおられることを実感しました。

一緒に教材作成をしたり、サポートに向かったりした記録を見ると、この2年間でアカンサスポータルはかなり普及したと言えます。協力していただいた部局・先生のおかげです。ありがとうございます。その過程で多くの方々の利用相談にのらせていただきました。私の活動が少しでも「役にたった」と実感されたならば、たいへん嬉しく思います。

規模縮小ながらもFD・ICT教育推進室は来年度も存続しておりますので、皆様の要望に合わせ、さらに便利にご活用いただければと思います。金沢大学の皆様に再度感謝申し上げます。ありがとうございます。

(文責：FD・ICT教育推進室 末本 哲雄)

特任助教の雇用期限終了により、4月から、FD・ICT教育推進室は、スタッフ減による大幅な体制縮小となります。今後も、出来る限りアカンサスポータル利用者支援、教材作成支援業務を行いたいと考えていますが、今まで通りのレベルは維持できなくなります。ご不便をおかけするかもしれませんが、ご容赦ください。

アカンサスポータル自体は、より使いやすいシステムへ向けての改良を続けていく予定ですので、これからもご愛顧のほどよろしく願いいたします。

〇●〇 第15回FDフォーラム参加報告 〇●〇

2010年3月6-7日、同志社大学今出川校地(京都)にて大学コンソーシアム京都主催の第15回FDフォーラムが開催された。このフォーラムでは全国から1000名を超える関係者が集まり、大学教育について活発な議論が行われる。このFDフォーラムは同じ月に開催される京都大学高等教育研究開発推進センター主催の大学教育研究フォーラムと並び、日本のFDにおいてもはや3月の風物詩として定着した。

本報告では、6日に行われたシンポジウム「学生の学びを支える一つなぐFDの展開」の4つの講演より、圓月勝博氏(同志社大学)の「教員をつなぐFD」を紹介する(ちなみに他の3つは、橋本勝氏(岡山大学)の「学生をつなぐFD」、神保啓子氏(名城大学)の「職員をつなぐFD」、小田隆治氏(山形大学)の「大学をつなぐFD」である)。教員をつなぐことの難しさについて、圓月氏は「なぜこのテーマを引き受けてしまったのだろう」と

冗談を述べながらも、重要な示唆を与えてくれた。

FDを議論する場合、現在は授業改善という狭義のFDを超えた構成要素を考慮しなくてはならない段階に入っている。前述の4講演のタイトルからも分かるとおり、大体の範囲は既にカバーされてきた。今後、これらにいかにも成熟させるかが重要な課題となる。当然、時代の変化に対応していく必要がある。圓月氏は「大学教員の変化の意識は極めて遅い」と指摘する（講演スライドには、[速い]←①学生のユニバーサル化、②教育環境(ICTの発達など)、③教育方法(双方向型授業など)、④教育内容(初年次、キャリア教育など)、⑤職員の意識改革、⑥教員の意識改革→[遅い]、と表示されていた)。教員の意識を変えることは極めて難しい。

面白いことに「94%の大学教員は自分が同僚よりも優れていると感じている」らしい（ただし、出典は不明）。例えば、研究業績だったり（私は他の教員より多く論文を発表している。だから偉い）、教育業績だったり（学生の授業評価が高い。だから偉い）、社会貢献だったり（きちんと地域のために…。偉い）、管理運営だったり（重要な委員会で…）というように。大学教員として評価基準の喪失やキャリアパスの複線化、専門分野のモジュール化、大学の機能別分化の促進、国際化の進展、ジェネレーション・ギャップの加速化などが原因となろう。日本では研究成果重視の傾向にあるが、今後は教育、社会貢献、管理運営などの評価も整理していく必要があると、圓月氏は述べていた。もちろん均等である必要はなく、大学の機能的役割や各大学教員の向き不向きによってバランスをとるように向かうだろう。

講演では、大学教員のつなぐためのコツも紹介された。基本意識は「2・6・2の法則を心静かに受け入れる」ことである。教員を分類すると、「とにかく賛成」の2割、「できるなら協力する、よくわからない、無理なら参加したくない」の6割、「とにかく反対」の2割となる。「とにかく反対」については放っておき、害がでるようなら管理責任者より注意してもらう他に手立てはない。その上で心得として次の7つを学ぶべきである。[①怒らない、②自慢話をしない、③同僚の無知を罵倒しない、④執行部の無能を糾弾しない、⑤他大学や外国を過度に理想化しない、⑥FDを万能薬のごとく吹聴しない、⑦不和をもって尊しとなす]。「雑多な文化こそ、大学のよいところ」と圓月氏は表現した。確かに均等であると、大学としての個別的役割までが失われてしまう。雑多であることを前向きに捉える度量と雑多をまとめあげる上層部の舵取りが大学の命運を分けることになるだろう。

最後に、つなぐFDの代表的な方策として新任研修の重要性に話が及んだ。「鉄は熱いうちに打て」である。大学の固有文化を浸透させるよい機会であり、共同体意識の醸成にも役立てたいものである。新任研修と言えば、筆者は第243回共同学習会(本学大学教育開発・支援センター主催)にて、大学の理念や組織の在り方を延々と説明される研修を止めて、教員間交流をメインとした新任研修の事例を紹介した。

教員をつなぐFDとは、確かに困難を極めるものだと容易に予想されるが、大学の生き残りや教員のキャリアプランを考える上で今後さらに重要性をましていこう。（文責：FD・ICT教育推進室 末本 哲雄）

○●○ センター来訪者記録（2010年1月～3月） ○●○

2010.2.5 大阪大学学際融合教育研究プラットフォーム 中西浩教授：大学院共通（学際）科目について意見交換（西山が対応）

2010.2.23 関西大学特別顧問 水越敏行教授、教育推進部教育開発推進センター 三浦真琴教授、学事局授業支援グループ 竹中喜一氏：当センターの活動について情報提供および意見交換（青野・西山・渡辺・山田が対応）

2010.2.24 熊本大学大学教育機能開発総合研究センター 本間里見准教授、eラーニング推進機構 松葉龍一准教授：クリッカー導入の概要、効果と課題等について情報提供（青野・末本が対応）

2010.3.9 名古屋工業大学生命物質工学科 山下啓司教授：共通教育における学生相談について情報提供（青野・西山・堀井が対応）

2010.3.10 福島工業高等専門学校 布施雅彦准教授：本学のICT教育の取り組み・教職員のICT活用支援等について情報提供（堀井が対応）